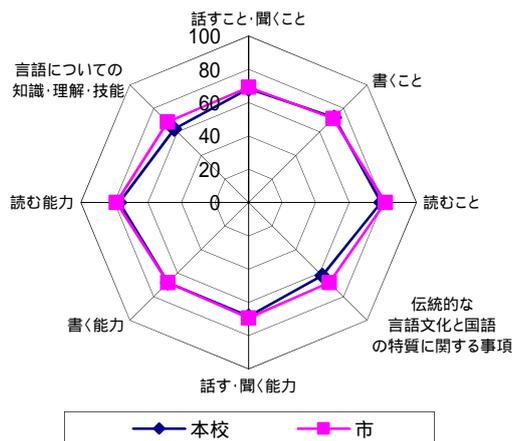


宇都宮市立白沢小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.4	69.3	73.4
	書くこと	72.1	71.3	74.6
	読むこと	79.0	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.1	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	68.4	69.3	73.4
	書く能力	68.1	68.1	71.7
	読む能力	77.1	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	62.5	68.4	72.0

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市平均とほぼ同等である。</p> <p>○「話し方の工夫を考えながら、話し合いの内容を聞く」設問において、正答率が87.8%と、市平均を2.3ポイント上回っている。</p> <p>○「司会者の役割を理解して、計画的に話し合おう」とする設問では、正答率が98.0%と、市平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p>話し手の意図を考えながら、話し合いの内容をまとめる設問においては、正答率が19.4%と、市平均を10.5ポイント下回っている。</p>	<p>・学級活動や朝の会等での話し合いで司会者となり、話し手の意図を考えながら、内容をまとめる体験ができるような場を多く設定する。</p> <p>・ペア学習やグループ活動などで互いの考えを交流させるなど、学び合い活動において、話すこと・聞くことへの指導の充実をさらに図る。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市平均を上回っている。</p> <p>○「グラフの内容を読み取って、文章に適切に書き表す」設問では、正答率が58.2%と、市平均を3.6ポイント上回っている。</p> <p>○指定された長さで文章を書いたり、自分の意見を明らかにして文章を書いたりするという設問では、正答率が79.6%と、市平均を2.6ポイント上回っている。</p> <p>「理由や事例を挙げて文章を書く」設問では、正答率が56.1%と、市平均を6.5ポイント下回っている。</p>	<p>・作文の構想を組み立てたり、2段落構成、字数制限内で書くといった条件付き作文を書いたりする時間を設けて、さらに書く力を高める。</p> <p>・理由や事例を挙げる語彙に注目して文章を書けるように、教室に語彙や例文を掲示し習熟を図る。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市平均を下回っている。</p> <p>○「物語の登場人物の心情を読み取る」設問においては、正答率が93.9%と、市平均を7.5ポイント上回った。</p> <p>説明文の内容を的確に読み取る設問では、設問(2)で正答率が57.1%と、市平均を10.8ポイント下回っている。また、設問(3)で正答率が79.6%と、市平均を5.2ポイント下回っている。</p>	<p>・物語文や説明文などの文章をしっかりと読み取ることができるよう、根拠となるキーワードを見つけたりワークシートを活用したりして学習を展開していく。</p> <p>・文章を拡大したものを利用し文章の構造を視覚的に捉えやすいように掲示物を工夫する。</p> <p>・読み取った内容の考えを互いに交流させる学び合いの学習の充実を図る。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市平均を下回っている。</p> <p>○言葉の学習の敬語(謙譲語)の使い方についての設問では、正答率が49.0%と市平均を8.2ポイント上回った。</p> <p>第5・6学年の配当漢字の読み書きにおいて、8問のうち7問の正答率が、市平均を下回っている。無解答が24.5%の設問があった。</p> <p>三字の熟語の構成や同音異字の理解の設問では、正答率が81.6%と、市平均を3.9ポイント下回った。</p>	<p>・漢字の読み書きでは、ドリル等を活用しながら、小テストや自主学習において、正しい漢字の習得の定着につながるよう継続的に取り組む。</p> <p>・漢字や語句、熟語などの理解を深めるため、国語辞典や漢字辞典の活用を習慣化するように、授業だけでなく家庭学習でも利用するよう助言する。</p>

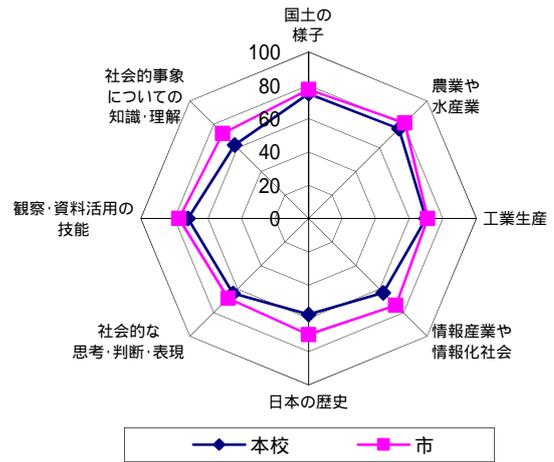
良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【社会】領域別 / 観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	75.0	77.5	74.0
	農業や水産業	76.3	81.1	73.7
	工業生産	70.0	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	63.0	73.7	63.2
	日本の歴史	57.7	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.7	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	71.8	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	62.4	72.2	73.1

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市平均をやや下回っている。 ○日本の気候の様子についての設問において、正答率が90.0%と、市平均を13.5ポイント上回っている。 日本の周囲の国の国旗を問う設問において、正答率が64.0%と、市平均を12.0ポイント下回っている。	・日本周囲の国名や国土の様子や特色だけでなく、国旗等にも目を向けて資料集や地図帳などの各種資料を積極的に活用したり、重要なところを繰り返し復習したりして、理解が深まるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市平均を下回っている。 日本の食糧生産がかかえる課題について、資料をもとに考える設問において、正答率が50.0%と、市平均を8.5ポイント下回っている。	・資料の読み取りに課題が見られるので、グラフや表の読み取り方の手順や観点などを示し、正確に読み取れるようにする。 ・日本の農業や水産業について、資料などを参考に調べ学習を行い、興味関心を高めるようにする。
工業生産	平均正答率は、市平均とほぼ同等である。 化学工業の製品についての設問では、正答率が72.0%と、市平均を4.1ポイント上回っている。 工業地帯・工業地域の立地について、資料を読み取り考える設問では、正答率が68.0%と、市平均を6.2ポイント下回っている。	・工業地帯や工業地域の立地についての理解に課題が見られるので、教科書や資料集、地図帳等を活用して各工業地帯の特色について調べることで知識の定着を図る。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市平均を下回っている。 身のまわりのメディアについての設問では、正答率が56.0%と、市平均を15.3ポイント下回っている。 医療における情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考える設問では、正答率が70.0%と、市平均を6.1ポイント下回っている。	・身の回りのメディアについて、主な情報の種類や特色を教科書や資料集等を活用してまとめ、関心を高めるように努める。 ・情報産業が私たちの生活に密着したものであることに気づかせるため、調べ学習を通して自分の考えをまとめ、資料を活用して表現する活動を取り入れる。
日本の歴史	平均正答率は、市平均を下回っている。 竪穴住居の名称を答える設問では、正答率が60.0%と、市平均の正答率を20.1ポイント下回っている。 伊能忠敬の業績についての設問では、正答率が66.0%と、市平均を15.4ポイント下回っている。さらに国学の理解についての設問では、正答率が36.0%と、市平均を29.8ポイント下回っている。	・各時代の文化に対する知識理解に課題が見られるので、教科書や資料集を活用して各時代ごとの文化について自分なりにまとめ、各文化の特色を理解できるようにする。 ・修学旅行等で現地での学習にも取り組むことで、歴史的背景やその時代の文化などを具体的に理解できるようにする。

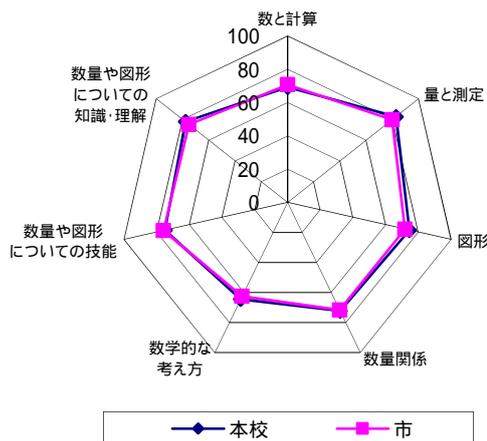
良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【算数】領域別 / 観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.4	70.8	65.9
	量と測定	82.7	79.9	77.0
	図形	74.5	71.8	74.6
	数量関係	72.3	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	64.3	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	75.0	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	77.8	75.1	76.3

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

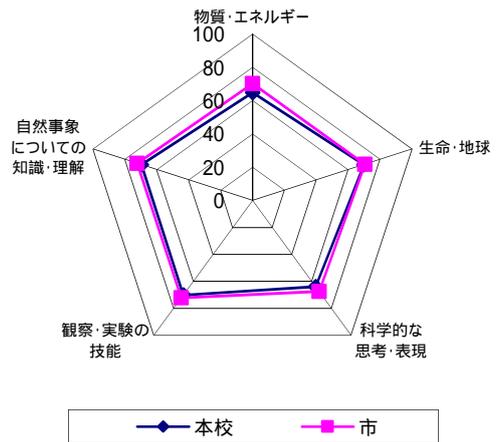
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市平均を下回っている。 ○分数の除法の文章問題を表した図を選ぶ設問において、正答率が75.5%と、市平均を3.3ポイント上回っている。 図を見て、小数倍の文章問題を解くための乗法の式を選ぶ設問において、正答率が36.7%と、市平均を17.4ポイント下回っている。</p>	<p>良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小数、分数の計算、分数の通分・約分等に必要わり算、公約数・公倍数などについて、練習を繰り返し行うことによって理解の定着や技能の向上を図る。 ・様々な計算の反復学習を進めるとともに、習熟度別コース学習などにより、個に応じた支援を継続して行う。 ・文章の読解力を高める学習の時間を確保する。
量と測定	<p>平均正答率は、市平均を上回っている。 ○図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶ設問において、正答率が87.8%と、市平均を11.2ポイント上回っている。 値に0があり、答えが小数になる連続量の平均を求める設問において、正答率が75.5%と、市平均を6.3ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公式について、既習事項をもとに根拠を明確にしながらか計算する活動を取り入れたり、解決方法の説明ができるよう、解き方についての言語活動を確保するなどの支援をする。 ・単位量の考え方を、反復練習などを行うことにより、定着させる。 ・公式を使って正確に答えを導くことができるよう、反復練習を行うようにする。
図形	<p>平均正答率は、市平均よりも上回っている。 ○点対称な図形の対応する点についての設問において、正答率が98.0%と、市平均を7.5ポイント上回っている。 三角形の内角の和が180度であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の1つの三角形の1つの外角を求める設問において、正答率が61.2%と、市平均を8.1ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形についての関心は高く、課題に意欲的に取り組む姿が見られる。図形の特徴を捉えたり、規則性を見つけたりするような活動を取り入れ、理解が深まるよう指導する。 ・様々な図形についての理解を深めさせた上で、正しい作図のやり方を習得することができるよう、繰り返し指導する。
数量関係	<p>平均正答率は、市平均を上回っている。 ○どの資料(グラフ)から読み取ったことがらであるかを選ぶ設問において、正答率が87.8%と、市平均を5.9ポイント上回っている。 もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べる量が多くなることを、具体的に説明する設問において、正答率が29.6%と、市平均を4.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・割合についての数学的思考や知識・理解は、個人差が大きく、定着が不十分である。図や式を活用して分かりやすく説明したり、生活の具体的な場面と関連させたりしながら、解決できるよう指導する。 ・課題の解決方法の説明ができるように、解き方についての言語表現を学ぶ時間を確保し、繰り返し指導する。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.9	70.3	69.0
	生命・地球	69.9	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	63.9	67.5	66.4
	観察・実験の技能	70.2	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	69.7	72.3	71.5

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市平均を下回っている。 空気中の気体の体積の割合についての設問では、正答率が92.0%で、市平均を2.4ポイント上回っている。 二酸化炭素と反応して白くにごる液体(石灰水)についての設問では、正答率が82.0%で、市平均を6.5ポイント上回っている。 ふりこの長さから、同じ周期になるふりこを選択する設問では、正答率が50.0%で、市平均を20.2ポイント下回っている。 ろうそくが燃える前後の空気中の気体の変化についての設問では、正答率が68.0%で、市平均を7.1ポイント下回っている。 リトマス紙の色の変化と水溶液の性質に関する設問では、正答率が62.0%で、市平均を9.0ポイント下回っている。 電流の向きと電磁石の極の関係についての設問では、正答率が52.0%で、市平均を19.8ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を推測し、実験を行い、結果をまとめ、考察・検証するという学習の流れを大切に、科学的な思考力を高める。 ・ふりこの周期には長さだけが関係すること、その他の条件(ふれ幅、おもりの重さ)は関係しないことをしっかり理解できるよう、実験の結果から考察する時間をじっくりと取るとともに、復習も行って定着を図る。 ・ろうそくなどが燃える前後の空気中の気体の変化について、実験の結果を振り返り、燃えた後の空気中は燃やす前より酸素が減り、二酸化炭素が増えることをしっかりと理解できるようにする。 ・リトマス紙の色の変化と水溶液の性質について復習の時間を取り、定着を図る。 ・電流の向きが反対になると電磁石の極も反対になることが正しく理解できるよう、実験の結果も振り返りながら復習する。
生命・地球	<p>平均正答率は、市平均とほぼ同程度である。 インゲンマメが発芽するときの養分についての設問では、正答率が90.0%で、市平均を2.5ポイント上回っている。 血液が体の各部や肺で交換する物質についての設問では、正答率が86.0%で、市平均を7.1ポイント上回っている。 食物連鎖についての設問では、正答率が84.0%で、市平均を6.8ポイント上回っている。 太陽の特徴についての設問では、正答率が90.0%で、市平均を1.0ポイント上回っている。 植物の発芽についての対照実験の目的を答える設問では、正答率が68.0%で、市平均を8.3ポイント下回っている。 植物の茎の水の通り道を考える設問では、正答率が46.0%で、市平均を10.3ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の発芽などの対照実験では、目的に応じて調べる条件を1つだけ変えることをしっかりと確認し、結果から分かったことは何かを考える時間を充分確保する。 ・植物の茎の水の通り道について、実験の結果をじっくり考察するとともに、図や写真なども活用しながら確認し、正しく理解できるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学び合う活動の実践	・自分の考えを言葉や文章、式、図等で表現したり、さまざまな形態(ペア・グループ・全体)で学び合ったりする場を設定している。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では、市平均を8.3ポイント下回った。また、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」では、市平均を14.4ポイント下回った。ペア・グループ・全体などによる話し合いの仕方を改めて指導し、今後も活動を継続して行う必要がある。
・「めあて」「まとめ」「ふり返り」の確認・徹底	・全教職員が共通理解のもとに、授業において「めあて」「まとめ」「ふり返り」を板書し、児童と共に確認し、ノートにまとめる指導を行っている。	・「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」では、市平均を16.4ポイント下回った。今後も板書の工夫や、分かりやすいノートの書き方等についての指導を継続していく。
・家庭学習の習慣化・充実に向けた指導の工夫と奨励	・「家庭学習のすすめ(小中一貫 地域学校園版)」や「家庭学習の手引き(本校版)」などを活用し、宿題以外にも自分で考えた学習をするように指導している。また、学習の仕方について例を示したり、進んで学習している児童のやり方を紹介したりしている。	・「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」では、市平均を5.5ポイント下回った。また、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」では、市平均を16.7ポイント下回った。「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」では、市平均を9.7ポイント上回った。今後も家庭学習を効果的に進めることができるよう、継続して指導する。

国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・各教科の授業において、自分の考えや気付いたこと、分かったことなどを、文章や式、図などによって表現したりまとめたりする活動を、継続的、意図的に行うようにする。
- ・授業において、児童がまず自分の考えをまとめ、次にペア・グループ・全体等の形態で学び合う場を設定し、話し合う活動を取り入れるようにする。
- ・学習の基礎・基本となる漢字・語句や計算力などが確実に定着するよう、授業時間だけでなく、朝の学習の時間を活用したり、家庭学習を奨励したりして、繰り返し学習できるように支援する。国語辞典や漢字辞典、インターネット等を活用させ、漢字や語句についての理解が深まるようにする。
- ・「家庭学習の手引き」「家庭学習のすすめ」などを参考にして、自分から家庭学習に取り組むことができるよう、指導を継続する。